

第5回 那覇空港調査PI評価委員会  
議事概要

1 日時 平成19年8月10日(金) 14:00~15:40

2 場所 沖縄ハーバービューホテル2階 金鶏の間

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

琉球大学名誉教授	上間 清
弁護士	大城 浩
フリージャーナリスト	崎山 律子
琉球大学工学部教授	堤 純一郎
淑徳大学国際コミュニケーション学部教授	廻 洋子

(2) 那覇空港調査連絡調整会議からの参加

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官	成瀬 英治
国土交通省大阪航空局飛行場部次長	八木 千津男
沖縄県企画部参事	滝澤 裕
内閣府沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所長	津田 修一

4 主な発言内容(順不同)

(1) PIステップ3の情報提供・意見収集資料について

(委員) サンゴ、藻場等で確認された生物が列挙されているが、その生物が貴重種であるかどうかなど分かるよう示すべきでは。

(事務局) 当該域での絶滅危惧種等の情報についてはホームページに掲載しているので、ホームページへのアクセス方法をつけ加える形で対応したい。

(委員) 方策を実施するとしたら、どのような貴重種に影響があるのか。報告書を読む人はそこが知りたいと思う。この部分には貴重種を挙げた方がよろしい。

(事務局) 既往調査で判明している貴重種を中心にリストアップをしている。どの貴重種にどういった影響がでるのか等については、施設計画段階で、さらに細かい調査をしてみないと分からない。

(委員) 滑走路案選定の評価指標のうち、発着回数は順位付けでの評価に対し、地上走行距離は現況に対する倍数での評価となっている。地上走行距離は長くなり、発着回数はあまり伸びない、という印象を与えかねない。

(委員) 航空会社は、燃料に影響する地上走行距離に関心があるとは思いますが、一般人には、走行距離ではなく時間の方が分かりやすい。

(事務局) 適切な表現方法を検討してみたい。

(委員) 一般人にとっては、滑走路増設の3案、有効活用方策案、施策なしから考えるのが普通。3つの案のどれが良いかは専門家の判断となると思う。今後はこの3案がベースとなるのか。

(事務局) 将来的にこの3案からどれかを選ぶということではないが、一つのベースにはなる。増設しない場合との比較で、増設する場合のイメージを持ってもらうにあたり、特徴的な案を選定した。

(委員) 経済効果の規模が分かりにくい。沖縄の観光収入等の比較できる額を示したほうが良い。

(事務局) ご指摘のとおり対応したい。

(委員) 自衛隊機の発着回数84回の吹き出し位置はきちんと自衛隊機へ向けてもらいたい。

(事務局) ご指摘のとおり対応したい。

(委員) 自衛隊の発着回数が将来どうなるのか示すべきではないか。

(事務局) 将来どうなるかは予測できないので、現状と同様としている。

(委員) ほとんど文字だけのページについては、図解を入れるなど視覚的に分かりやすいよう工夫してもらいたい。

(事務局) レイアウトや表現方法を工夫したい。

(委員) 「今後の那覇空港のあり方」というと、既に結論が出ているような印象を与えかねない。どちらかというと「那覇空港を取り巻く環境」ではないか。

(委員) 「これからの那覇空港についてあなたの声を下さい」というのを前面に出した上で、関連情報として那覇空港を取り巻く環境を整理した方が良いのでは。

(事務局) 先ほどのレイアウトと合わせて整理したい。

## (2) PIステップ3の実施について

(委員) アンケートの回答数目標はどれくらいか。

(事務局) 目標は決めていないが、今回が最後ということで、相当量の意見をいただかないといけないと考えている。

(委員) 目標値を決めると、行政はなんとかしてかき集めてくる。目標値を決めない方が、自然な意見が集まるのでは。

(委員) できるだけ前回は上回る関心をお寄せいただけるよう、努力してもらいたい。

(委員) 昨年度よりきちんと周知する方法になったという感じはする。ステップ3なので、PIを実施しているという事よりは、その内容を広めるという意味で、このよ

うな実施計画で良いと思う。

(委員) 報告書と概要版の章立てが異なるので戸惑う。形式はできるだけ共通性をもたせつつ、わかりやすいよう工夫してもらいたい。

(事務局) 表現方法を検討したい。

(委員) アンケートの設問は、「検討したこと」が理解できたかどうかではなく、「検討した結果」が理解できたかどうかを聞くのが本来の趣旨であり、表現が少しおかしくなっている。

(事務局) 誤解が無いよう、全体的に見直したい。